きもの茶屋

寸一服新聞

第七号

11月のこうづき
創業祭
創業66周年記念
14日(金)～18日(火)

2014霜月
November

こうづき Kou zuki
彩・きもの・コレクション
至滝野 至加東 至小野 ローソン ポンマルシェ
ホームページアドレス
http://www.kouduki.com
携帯用ホームページアドレス
http://kouduki.msc.ms2.jp
〒673-1431 加東市社349-1(ポンマルシェ社店前)
TEL 0795-42-0359(代) FAX 0795-40-2172
営業時間AM9:30～PM7:00 定休日 水曜日

十一月 ・・・きもの事始め・・・

秋も深まり、各地で紅葉が真っ盛り。紅葉の色も、紅色、橙色、黄色、青黄色、とさまざまで、その美しさは格別です。この月は七五三のお祝いがあり、神社ではきもの姿の親子連れが目につきます。街のギャラリーではさまざまな展覧会が催される時期なので、お気に入りのきものにショールを羽織って、気軽に出かけてみませんか。

茶席の装いをお洒落に 秋色をしっとり装う

季節に四季があるように、きものの色にも四季があります。
春から夏に向かっては明るく澄んだ色合いが好まれ、暑い夏には一段と涼味の感じられる色が求められます。そして、秋の声を聞くと落ち着いた深みのある色合いが黄みをおびた光の色に調和し、冬には暖かさのある色が恋しくなります。
模様だけでなく、色でもそっと季節の移ろいを感じさせる。
それも茶席のお洒落の楽しみの一つでしょう。

深まりゆく秋の陰影に映える色

秋になり、紅葉がその色を増し、日の入りが釣瓶落しのごとく早まる頃になると、きものの色もそれに呼応するように、深い色合いが好ましく思えます。このような感覚は誰かに強制されて生まれるものではありません。小さい頃から周囲の人々の装いを見て自然に覚えるものです。この色は秋らしいとか、質感がこの季節にふさわしいなどと会話を重ね、やがて身についてきます。それは洋服を選ぶうえでも同じでしょう。最近は洋服の感覚できものを選ぶとよくいわれますが、実は、きものの季節感を基準に洋服を選んでいるのかもしれません。
秋の茶席では目立ちすぎるきものは浮いてしまう、と思う意識は、日本人としてのDNAに刻まれているのでしょうか。四季をもつほかの国でもこれほど色に対しての季節感はないとか。とくに取り合わせを大事にする茶の世界、色の季節感も大切に装いたいものです。

文様の美 蜻蛉(とんぼ)

赤とんぼが秋の季語になっているように、いち早く秋の訪れを感じさせてくれる意匠、蜻蛉。古代には日本を「秋津島」(あきづしま)と呼んでいましたが、これは蜻蛉(あきづ)(とんぼの古称)が飛び交う島という説話に由来しています。また蜻蛉は縁起のよい虫とされていて、勝虫(かちむし)の別名で呼ばれ勝利を祈願して武具などにも描かれています。

夏の終わりから秋の初め、トンボが空を飛び交う季節になると、子供たちは、網や虫籠を持って、トンボ捕りに繰り出します。この独々しくも凛々しい昆虫に魅せられたのは、どうやら子供たちだけではなかったらしい。『日本書紀』の雄略天皇の事績を記したくだりには、虻、疾く飛び来て、天皇の臂をくふ。是に蜻蛉、忽然に飛び来て、虻をくひてもて去ぬ。天皇、その有ることを喜したまひ、侍臣に詔して曰はく「朕が為に蜻蛉を讃めて歌よみせよ」とのたまふ…と記されています。なにやら難しい言葉が並んでいますが、つまり、不幸にも天皇のお尻を刺した虻を蜻蛉があっという間に退治して、天皇から賞賛された、という話です。
日本人は基本的に農耕民族ですから、稲などの作物を荒らす虫だとか、うるさく飛び回って農作業の邪魔をする虫などなかは、もっとも厳わしい存在だったんですね。そこに救い主のごとく登場するのがトンボです。トンボは肉食だから、稲に集まる虫だとか虻、蜻のたぐいをかたっぱしから食べてしまう。農業で暮らす人々にとっては、まことにありがたく頼りがいのある虫だったわけです。

きれいな衿合わせのコツ

ふみこのコレ知っとこ

半衿が動かず、長く美しさを保つには、どの位置で合わせるのがよいのでしょうか。一般的には喉のくぼみが見える程度に合わせ、バストトップに衿山が掛かるのを目安にすると、衿もとが安定し、美しい着姿になります。このとき、長襦袢の衿先に力布(あるいは紐)を付けておくと腰紐を締めた後にも直しやすく、着崩れを直すときにも役立ちます。

衿がバストトップの位置に当たるように合わせると、きれいな衿もとになります。首の中心下にある喉のくぼみが隠れないようにします。

和装用ブラジャーについて

美しく着付けるための一助として、和装用のブラジャーがあると胸の形が整います。特にふくよかな方は前をすっきりと押さえます。和装用のブラジャーは、前ホック式や前ファスナーのものなど多くの種類があります。ホックやファスナーの裏に金具が直接当たらないよう工夫したものや、自分で補整できるようなパッドが付いたものもあります。

スポーツウエアに使われている吸汗性、速乾性などに優れている素材を使用。ファスナーが肌に触れないように、裏に当て布が付いています。

裾と袂の扱いに気を配りましょう

きものの立ち居振る舞いといっても、特に難しいことはありません。例えば、洋服でもハイヒールやミニスカートのときは、動作に少し気を配るのと同じことです。洋服とは違う長い裾や袂、背中の帯結びの膨らみなどにちょっとした気配りをすることで、姿が美しく見えるのはもちろん、動作もスムーズに行えます。また、美しい立ち居振る舞いは、きものに疲れやひどいしわを付けない予防にもなります。階段の上り降りでは、とにかく裾を擦らないように注意します。振袖は長い袖にも配慮が必要です。裾を持ち上げる際は、足首やふくらはぎが丸見えにならないように。

東福寺 天得院 紅葉を愛でる特別拝観とお食事プラン

ふみこのきものDeほっこり

天得院は「桔梗の寺」として、また秋はモミジの名所として期間を限って公開している。特別公開期間中は、上旬の黄色いつわぶきの花々から、徐々に紅葉へと引き継いでゆく。紅葉と苔のお庭を愛でながら、ゆっくりと食事を楽しむことができます。

2014年11月14日(金)～12月7日(日)

① 昼食: AM11:30～PM2:00 4,000円
② 茶席: PM2:00～PM5:00 1,300円
③ 夕食: 11/15(土)～12/1(月) PM:5:00～7:00 4,000円

詳細はホームページ TEL 075-561-5239
http://www.tentokuin.jp/tera/haikan.html

京都市東山区本町15丁目802
東福寺山内